

特70

130

克
克
彦
著

憲
法

特70
130

法學博士 笥 克 彦 君 講 述

憲

法

完

日 本 大 學 發 行

憲法目次

緒言

第一章	憲法ト最小限度ノ國法	一丁
第二章	憲法ト歴史及ヒ理	四丁
第三章	憲法ト表現關係及獨立關係	七丁
第四章	憲法ト性質及ヒ數量	二〇丁
第五章	憲法ト實質及形式	二八丁
第六章	日本憲法ノ最モ重キ特色	三〇丁
第七章	結論	三二丁

法學博士 寬 克 彦 講述



憲法ト云フモノハトク云フモノテアルカ憲法ニ依ツテ我我ノ法律生活ノ如何ナル部分カ如何様ニ發達ヲシテ居ルカヲ述ヘヤウ主トシテ一般ニ憲法ヲ取ツテ述ヘ終リニ我邦ニ於テ特色ナル部分ヲ附言セウト思フ。

第一章 憲法ト最小限度ノ國法

第一 最小限度ノ國法

一體國家カ存在スルト同時ニ或認定法カ存在スルノテアル此種ノ認定法ハ國家ヨリ前ニモ存在シテ居ラヌシ又國家ニ後レテ存在スルモノテハナイ而シテ國家カアリ法カアルトキニハ必ス同時ニ國家ヲ表現スル所ノ活働ノ主體カアル此表現ノ主體モ亦國家ト國家ノ法ト前後ナクシテ存在スルモノテアツテ此表現者ト

法ト國家ハ三者一體ヲ成シテ居ルモノテアル。然ルニ國家カ在ルト共ニ少クモ存在シナケレハナラヌ法トハトウ云フモノテアルカト云フト、是ハ憲法ヲハナクシテ最小限度ノ國法ト云フモノテアル、最小限度ノ國法ハ國家カアレハ必ス同時ニナケレハナラヌモノテアル、隨ツテ此法ハ國家ノ完全ノ發達ニ必要ナル法テアルトカ、國家ノ完全ナル成立ニ必要ナル法テハナイ、此法サヘアレハ國家カ存在カ出來ルト云フ、終局ノ僅ナ法テアルトウ云フモノテアルカト云フト、總攬機關及ヒ總攬機關ノ構成者ヲ定ムル所ノ法テアル、日本テ申スナラハ天皇ト云フ機關ヲ定メ且如何ナル御方カ天皇ト爲ラルルカト云フコトヲ定ムル法テアル、天皇ト我我カ申スモノハ國內ノ總テノ活動力ヲ最後ニ統括スル所ノ機關テアル、其機關ヲ構成スルモノヲ我我ハ天皇陛下ト申シ上クル、天皇陛下ト我我カ申シ上ケルノハ如何ナル御方ヲ指スカト云フト、決シテ特殊ノ生物トシテ存在セラルルノテハナイ、特ニ人間ト異ナツタモノトシテキラセラルルノテハナイ、矢張り人間テアラセラルル、然ルニ何故ニ天皇陛下ト申シ上クルカト云フト、是ハ我我ヲ支配スル所ノ力ヲ表現セラルル御方テアル、我我ハ此御方ノ表現セラルル命令ニ從ハナラヌノ

テアル。左様ニ各人カ思ツテ居ル、ソレヲ天皇陛下ト申シ上クルノテアル、天皇ト申ス特殊ノ有機體ヲハナイ、矢張り同シク人間テアラセラレテ、其御方カ我我ヲ支配スル力ヲ表現セラルル、我我ハ其表現セラルル支配力ニ從ハナラヌ、此意味ヲ長長シク觀念スル代リニ、我我カ天皇陛下ト觀念スルニ外ナラヌノテアル、然カモ尙我我カ此ノ如ク思フノハ即チ我我ノ考タケニ止ツテ居ラヌノテアツテ、何人モサウ云フ意思ニハ從ハナラヌモノト認定セラルルモノテアル、何人モ其意思ニ從ツテ天皇カラ支配セラレテハナラヌモノテアルト云フコトヲ我我カ一般ニ認メテ居ルノテアル、又中ニ之ヲ認メヌ者カアツテモ之ヲ認メテハナラヌヤウニ天皇及ヒ總テノ者カラ強制セラルルノテアル、此ノ如クニシテ存在スル普遍規律意思又ハ合成規律意思之ヲ名ケテ最小限度ノ國法ト云フノテアル

第二 憲法

然ルニ國家カ段段發達スルニ從テ、國家カ在ルト共ニ是非ナケレハナラヌト云フ法ヲナクシテ、國家ノ完全ナル發達ニハ是非共ナケレハナラヌト云フ、認定的根本法ノ一揃カ出來ル、此根本法規ノ一揃ヲ之ヲ憲法ト云フノデアアル、國家ノ完全ナル

成立國家ノ完全ナル發達、國家ノ完全ナル活動、此完全ト云フコトヲ主トシテ其爲メニ必要ナル所ノ根本法規ノ完全ナル一揃カ憲法テアル、然ルニ如何ナルコトカ完全テアルカト云フコトハ絶對ニ定マルコトカ無イモノテアツテ、各個人ノ心ノ發達ニ應シテ完全ナル根本法ト見ラルヘキモノカ常ニ變遷シテ居ルノテアル、今日我我ノ心理狀態ニ照シ合シテ見ルトキハ、其心理狀態ヲ有スル人間ノ集ツテ成シテ居ル國家カ完全ナル成立ヲ爲シ、完全ナル發達ヲ爲シ、完全ナル活動ヲ爲スニ必要ナル所ノ根本法ノ一揃ト認メラレテ居ルモノテアル、ソレカ今日我我カ憲法ト云ウテ居ルモノテアル、日本帝國憲法ト云フ名ノ下ニ存在シテ居ル七十六條モ亦此ノ如キモノニ外ナラヌノテアル

第二章 憲法ト歴史及ヒ理

然ルニ完全ト云フコトハ、理窟ノ上ニ於テモ、今日ノ如キ心理狀態ニ居ル者ニ對シテモ、如何ナル認定的根本法カ必要テアルカ、又如何ナル根本法ノ如何ナル風ノ一揃カ入用テアルカト云フコトハ、理窟ノ方ニ於テモ昔カラノ歴史的经验ニ基イテ考ヘルコトカ出來ル、而シテ其理窟カラ考ヘテ出テ來ル所ノ結論ナルモノハ自然

ノ理法ニ反セサル所ノモノテアル、ソレト同時ニ我我ノ進歩シヤツト云フ心、我我ノ向上心ニ基イテ爲ス所ノ活動ノ發展ト云フモノハ、自ラ我我ノ間ノ認定法ノ發展ヲ促シ、認定法ノ發展ヲ完成セシムルモノテアル、我我ハ理窟ヲ言フカ、理窟ト云フモノハトウ云フモノテアルカト云フト、正シイ理窟ハ之ヲ正シク用フルトキニハ我我ノ活動カ盛ニナル、間違ヒナク活動カ出來ルト云フモノヲ云フノテアル、火カ燃ユルト云フコトヲ我我カ理窟テ申シマス、又經驗ニ基イテ動カスヘカラサル所ノ知識テアル、ナセ火カ燃ユルト云フコトカ正シイカト云フト、ソレヲ用ヒテ活動スル之ヲ用ヒテ經驗スルトキハイツモ正シイ經驗カ出來ル、間違ノナイ活動カ出來ルト云フカラ其理窟カ正シイト云フノテアル、理窟ナルモノハ活動ナルモノヲ除イテ仕舞ヘハ實ハ有ルカ無イカ分ラヌノテアル、活動ニ用ヒテ誤ノナイモノカ即チ理窟テアル、然ルニ國民ノ進歩心ニ伴ウテ益々完全ニ國民カ發達シ益々雄大ナル活動カ出來ルト云フノハ正シイ理窟ヲ用ヒナケレハ此ノ如キ發達ヲ爲スコトハ出來ナイノテアル、自然ノ理法ニ背カス適當ニ之ヲ利用スルカ故ニ益々我我ノ一般ノ活動カ雄大ニナツテ來ルノテアル、ソレ故ニ今日ノ憲法ハ自然ノ理法

ハ研究ノ方カラ云ウモ分ルシ同時ニ我我ノ國家的活動ノ盛ナル所ノ國民間ニ發達シタル所ノ歴史的結果トシテ見テモソレハ符合スルノテアル即チ雙方カラ觀察スヘキモノテアル尙ホ之ヲ纏メテ申セハ理窟ノ方カラ言ウテモ歴史ノ方カラ言ウテモ共ニ合スヘキモノテアル理窟ニ合ハヌ所ノ國家生活ナルモノハ發展スヘキモノテナイ雄大ナルモノテナイ雄大ナル以上ハ理窟ニ合ツテ居ルト思フ發達シタト云フ以上ハ必ス自然ニ合シテ居ルノテアル。

サウ云フ譯テアツテ今日ノ我邦ノ憲法ナルモノモ實ハ西洋ニ於テ發達シタ所ノ憲法ニ倣ツタモノテアルカ西洋ニ於テモ此憲法ノ發達ノ元ハ向上心ニ富ンテ居ツテ發達ノ心ニ於テ止マナカツタ所ノ英吉利ニ於テ自ラ理窟ニ合フヤウニ發達シテ來タモノテアル而モ是カ近世ニナツテ益々自然法ノ研究ト云フヤウナコト即チ自然ト云フヤウナコトヲ各種ノ方面ノ研究ニ於テ益々理窟ニ合フヤウニセラルレ其後歐羅巴各國ニ於テ各國家カ堅固ナル雄大ナル發達ヲ爲サウト思フ結果トシテ既往ニ鑑ミ理窟ニ照シテ此憲法ヲ採用シタノテアル其結果ハ益々ソレ等ノ國カ發達スルニ至ツタノテアル是ヲ以テ見ルト憲法ナルモノハ唯偶然ノ歴史

上ノ結果ノミニヨリ存在シテ居ルモノテハナクテ能ク理窟ニ合ツテ居ルコトカ其裏面ニ於テアルカラ各文明國ニ於テ之ヲ採用セラルルニ至ツタモノテアル而シテ其理窟ナルモノハ唯空理テハナイノテアツテ能ク高尚ノ理窟ニ合ツテ居リ又根本ノ理窟ニ符合シテ居ルカラテアル。

第三章 憲法ト表現關係及ヒ獨立關係

第一 時代思潮

今日ノ憲法ナルモノハ唯近世ノミニ於ケル所ノ時代思潮ノ賜物テハナイ既ニ中世ニ於テ其必要ナル所ノ根本的要素ノ一方面カ發達シテ居ル何テアルカト云フト各個ノ人格獨立全部タル人間トシテノ人格ノ外ニ之ヲ統一スル所ノ全部ト云フ觀念及ヒソレニ因ル社會ノ制度ヲ能ク發揮セシメタル所ノ中世其中世カ今日ノ憲法ノ發達ニ必要ナル一方面ノ基礎ヲ與ヘタモノテアル中世ナルモノハ近世ニ這入ツテカラ非常ニ嫌ハルルケレトモ實ハ歐羅巴ノ近世ナルモノノアルノハ中世ノ賜物テアルケレトモ獨立全部タル個人ヲ排斥スルコトカ極端ニシテソレニ執著シタル結果ハ多大ナル弊害ヲ生シテ其弊害ナルモノヲ打破ツタノモ近世

ノ初テアル。其基礎ノ上ニ成長シテ獨立獨行ノテキル者トナリ乍ラ舊制ヲ打破ツテ總テノ個人ニ獨立全部者タル價值アルコトヲ認メシムルニ至ツタ。各個人ナルモノハ神聖ノモノテアル。各個人ノ活働ハ自由テアル。財產ノ如キモ中世ニ於テハ輕蔑セラレテ居ツタノテアルカ。財產即チ金ト云フモノモ亦極メテ大切ナルモノテアルト云フコトニ至ツタノハ近世テアル。其後其風潮カ益々進ンテ參ツテ十八世紀ノ如キハ獨立全部タル個人アルコトヲ知ツテ之ヲ統括スル全部アルコトヲ知ラヌカノ如キ時代テアツタ。其反動トシテ又十九世紀ノ初カラシテ中世ノ思想ニ幾分カ立戻ツテ參リ。又哲學ナトノ方面ニ於テモ全部ト云フコトヲ考ヘ、學問ノ方面ニ於テモ實際ノ方面ニ於テモ、法律ノ方面ニ於テモ全部ト云フコトヲ非常ニ重ンスルヤウニナツタノテアル。其際ニ其ニツノ精神ノ結合カラ今日ノ憲法カ生シ、憲法カ生シテカラ以來ハ獨立全部タル個人ノ保障ヲ完全ニシテ、隨ツテ獨立全部タル個人カ自由ニ活働スルコトカ益々全キヤウニナツタト共ニ個人ノ統括スル全部ト云フ思想ニ依ツテ個人ノ自由思想ヲ完全ニシタノテアル。即チ唯盲目滅法ノ個人ノ自由ト云フコトヲナクシテ國家ト云フコトヲ標準トスル個人ノ自由

テアルト云フコトニ確定シタノカ憲法ノ效能テアツタ

サウ云フ譯テアルカラ今日ノ憲法ナルモノハ個人ヲ統括スル所ノ全部ト云フモノカ裏ニハ始終存在シテ居ルケレトモ其正面ニ於テハ尙ホ獨立全部タル個人ヲ旗標ニスル憲法テアル。佛蘭西憲法ノ如キハ殊ニ著シイノテアル。サウ云フモノテアルケレトモ憲法ナルモノハ既ニ其根底ニ於テ獨立全部タル個人トソレヲ統括スル全部トノニツノ要素カアツテ其要素カラ成ツテ居ルモノテアルカラ茲ニ特ニ注意セテハナラヌ點カアル。而シテ個人ヲ統括スル全部ト云フモノハ第二十世紀ニ於テハ一層思想ノ上ニ於テモ制度ノ上ニ於テモ進歩スルモノテアルト考ヘルノテアル

第二 君主

先ツ之ヲ日本ノ憲法ニ照シテ見ルト第一章ノ天皇ト云フ所ニ於テモ天皇ハ唯陛下御自身ノ勝手ニ御自分ノ權力ヲ行ハルルモノテナイト云フコトカ明カニ見えル。國家ナルモノハ即チ天皇テアルトカ天皇ハ如何ヤウナルコトテモ出來ルトカ天皇ハ專制スルモノテアルトカ云フコトハ第一章ニ於テ既ニ明カニ否認シテ居

ル、第四條ノ如キニ於テ天皇ハ統治權ヲ總攬スルケレトモ、此憲法ノ條規ニ依ツテ之ヲ行フト云フコトニ規定シテアリ、其他其以下ノ條文ニ於テモ天皇ハ總攬者テハアルケレトモ、自分ノ勝手ノミヲ行フコトハ出來ヌモノテアルト云フコトカ出テ居ル、ソレ故ニ天皇ナルモノハ昔ノ如クニ即チ國權ノ主體テアルト云フヤウナゴトハ今日ハ出來ナイノテアツテ、天皇ハ國ノ最高ナル總攬機關テハアルケレトモ、國權ノ主體テハナイ、國權ノ主體ナルモノハ國家テアル、天皇ハ唯國家ヲ最モ統括的ニ表現スルモノテアル、ソレ故ニ天皇ノ活動ハ即チ國家ノ活動トナル、天皇ノ發セラレタ命令ハ即チ國家ノ命令テアル、天皇ノ作ラレタ法律ハ即チ國家ノ法律テハアルケレトモ、天皇ナルモノハ國權ノ主體テハナイ、國權ノ主體ハ國家自身テアル、サレハ天皇ハ即チ國家ナレトモ、國家即チ天皇テハナイト云フコトカ今日テハ明カテアル。

第三章 臣民

第二章ニ至ツテ臣民ト云フコトニ付テ見テモ、今日ノ臣民ナルモノハ二ツノ方面ヲ持ツテ居ル、一方ニ於テハ昔ノ如クニ國家カラ支配セララルルモノテアル、支配セ

ラルルト云フノハ勿論人格者トシテ國家ニ對立シテ國家ノ權力ノ下ニ立ツト云フ意味テアル、是ト同時ニ臣民ハ國家ヲ成立セシムルモノテアルト云フコトカ今日ハ法理上明カニセラルルヤウニナツタ、臣民カ無ケレハ國家ハ無イノテアル、臣民カ國家ヲ作ツテ居ルモノテアル、而シテ其各臣民ハ國家ヲ表現シテ居ル、臣民カ悉ク皆國家ヲ表現シテ居ルノテアル、表現スルト云フノハ日本テ申セハ日本臣民ノ全體トシテ始メテ國家ヲ表現シ得ルト云フノテハナク、臣民ノ一人一人カ國家ヲ表現シテ居ル、即チ我我ハ皆國家テアル、諸君ノ一人一人カ皆日本國ヲ表現シテ居ル、私モ一人テ日本國ヲ表現シテ居ル、一人カ即チ日本國テアルト云フコトハ一人ノミカ專ラ國家ヲ表ハスト云フ意味テハナイ、私モ表ハシテ居ルト同時ニ諸君モ一人一人カ表ハスト云フコトニナル、即チ銘銘カ持ツテ居ル、分學的ニ申セハ權限カアツテ、其權限ニ付テ國家ヲ表現シテ居ル、即チ天皇モ國家ヲ表現シテ居ルシ、各省大臣モ國家ヲ表現シテ居ルシ、又我我モ國家ヲ表現シテ居ル、表現ト云フコトハ同シテアルカ、唯權限カ違フタケテアル、而モ最モ高ク且ツ廣イ權限ヲ有スルモノハ天皇テアル、我我臣民ハ唯自治組織トシテ自分タケノ特色ヲ以テ國家ヲ表

現、スルニ過キ、随ツテ範圍ノ上カラ言ウテモ極メテ小サイモノテアルシガノ上
 カラ言ウテモ極メテ弱イモノテアル範圍カ小サク力カ弱イト云ツテモ此自治組
 織タル表現者ヲ悉ク取去ツテ仕舞ツタナラハ日本國ナルモノハ無クナツテ仕舞
 フ、日本國ナルモノハ何處ニ存在シテ居ルモノテアルカト尋テ見ルトキハ即チ
 我我テアル唯我我ノ中ノ一人タケカ日本國テハ決シテナイ、現在ノ瞬間タケヲ取
 ツテ言ツテ見テモ少クモ五千萬人タケハ居ルケレトモ、五千萬人ヲ一人宛皆取ツ
 テ仕舞ツタナラハ日本國ハ無イノテアル此ノ如キコトカ明カニセラレタノハ專
 制國ニ於テ未タ完全ニ見ルコトノ出來ナカツタ法理テアル而シテ今日モ尙ホ此
 ノ如キコトニ氣ノ付カヌ所ノ人カ多イノテアル昔ハ君主一人ノミカ即チ國家テ
 アツテ外ノ人民ハ君主ニ對立シテ君主ニ支配サレテ居ツタモノテアルト云フコ
 トヨリ外ニ考ハ無カツタノテアル又ソレニ續イテハ君主及ヒ其臣下カ治メル所
 ノ者テ、民ナルモノハ其以外ニ居ツテ君主竝ニ其役人カラ治メラルモノテアル
 ト云フヤウナ考ヲ持ツテ居ツタモノテアル今日ハサウテナクシテ治メル者ハ即
 チ君主及ヒ總テノ臣民ヲ網羅シテ始メテ成立スルノテアルソレカ我國テアル國

家ナルモノハ統治ノ主體テアルカソレニハ必ス最高表現人タル總攬者カ入用テ
 アルシ、一般ノ人民モ入用テアル共ニ相俟ツテ始メテ國家ヲ成立シツツアルモノ
 テアル然ルニ其成立シタ國家ナルモノハ又一人一人ノ人間ニ對シテ其統治權ヲ
 行フモノテアル隨ツテ臣民ナルモノハ今日ハ二ツノ資格ヲ有スルコトニナルノ
 テアル

第四 憲法上ノ表現人

尙ホ憲法ニ規定シテアル所ノ帝國議會トカ國務大臣、樞密顧問、裁判所等ニ至ツテ
 モ今日ハ此ノ如キモノカ表現人ノ一種タル機關テアルト云フコトカ何レノ國ニ
 於テモ確定シタノテアル此表現人ナルモノハ臣民ト云フモノトハ違ツテ是ハ國
 家ヲ表現スルト云フ一ツノ方面ヨリ外ノ方面ハナイ、獨立ト云フ方面カラ見テハ
 何等ノ存在ヲ爲シテ居ラヌモノテアル、獨立ノ方面カラ云ヘハ活動ノ主體テハナ
 イ、獨立ノ方面カラ云ヘハ意思ハ持ツテ居ナイ、ケレトモ表現人トシテハ意思ヲ有
 スルモノテアツテ、其表現意思カ即チ國家ノ意思トナリ、其表現活動カ即チ國家ノ
 活動トナル、即チ表現活動ノ主體テアル、權限ノ主體テアル、昔ハ今日テ言フ裁判所

トカ、國會トカ云フモノモ實ハ表現人テアルカ、獨立人テアルカ一向分ラヌ、隨ツテ獨立人ノ人格ヲ持ツテ居ツタリ、獨立ノ意思ヲ持ツテ居ツタリシタ者カ深山アツタノテアルケレトモ、今日ハサウ云フ譯テナクシテ、是等ノ者ハ何等ノ獨立意思ノ無イ者テアル、唯表現意思ヲ持ツテ居ルモノテアルトシタコトカ定マツタノテアル

第五 物

又何處ノ國ノ憲法ニモ規定カアルカ、此財産上ノ關係ニ付テ觀察シテ見テモ、今日ハ國家ノ財産ナルモノト臣民ノ財産ナルモノトカ相對立スルノミナラス一體ヲ成スト云フ方面ヲ持ツテ居ル昔ハ國家ノ財産ト人民ノ持ツテ居ル財産ハ全ク別ナモノテアツタ、隨ツテ土地ノ如キモノテアルナラハ、國家ノ土地テアルナラハ人民カ完全ニ之ヲ所有スルコトハ不可能ノモノテアル、又人民ノ持ツテ居ル財産テアルナラハソレハ人民ノ財産テ國家ノ財産テハナイ、隨ツテ國家カ其財産ヲ好意上費フカ、或ハカヲ以テ之ヲ奪ツテ來ルカト云フニツノ中ノ一ツテアル、例ヘハ昔君主カ人民カラ贈リ物ヲ受ケル、貢ヲ受ケル人民ハ君主ハ能ク自分ヲ保護シテ下

サルカ故ニ其御禮トシテ品物ヲ差上ケル、或ハ君主カ自分ノ財政ノ必要カラ人民カラ收斂スル、隨ツテ寧ロ收斂ノ臣アラムヨリハ盜臣アレト云フヤウナ言葉カ出テ來ルノテ、人民ハ金ノ生ル木テアル、其木カラ金ヲ持ツテ來ル、人民ハ農産物ノ出來ル畑テアル、其處カラ大根ヲ抜イテ來ルト云フヤウナ譯テアツタ、然ルニ今日ニ於テハ各個人ノ財産ナルモノカ即チ國家ノ財産ト一ツニナル、土地ニシテモ人民ノ持ツテ居ル土地ハ即チ國土テアル、國土ト人民ノ所有スル土地ト云フコトハ決シテ矛盾シナイ、各人ノ持ツテ居ル土地ハ即チ國家ノ土地ヲ表現シテ居ルモノテアル、國家ノ土地ヲ構成シテ居ルモノテアル、又各人ノ持ツテ居ル其他ノ財産ニシテモ、各人カ國家ヲ表現スルト云フ方面カアツテ、各人即チ國家テアルカラ、其資格カラ見ルト、各人ノ持ツテ居ル財産ハ即チ國家ノ財産トシテ之ヲ見得ルノテアル、尙ホ法理上此點ハ十分ニ發達スヘキ點テアルケレトモ、斯フ云フヤウナ根據ニ基イテ今日ノ租稅ナルモノカ存在シテ居ル、今日ノ租稅ナルモノハ我我カ國家ニ歸一スル資格ニ於テ財産ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ證明スル爲メニ權利義務トシテ國家ニ差出スモノテアル

憲法ト表現關係及ヒ獨立關係

尙ホ之ヲ重キテ言フト、前ニ述ヘタ通り各人ハ即チ國家ヲ表現シテ居ルト云フ意味ハ、哲學上カラ申シテ見テモ各個人ナルモノハ各々各個人トシテ違ツタモノラアルケレトモ、其本來ノ存在ヲ尋子テ見ルトキニハ同シク日本人テアル、甲モ乙モ丙モ日本人テアル、甲ハ甲ト云フ方面ヲ持ツテ居ルカ、同時ニ又日本人ト云フ方面ヲ持ツテ居ル、ソレ故ニ甲ヲ指シテ是ハ日本人タト云ウテモソレハ本當テアル、甲ヲ指シテ甲ト云フト同シク本當テアル、之ハ乙ニツキテモ丙ニツキテモ同様ニ云ハレル、然ラハ其日本人タル方面ニ於テハ甲モ乙モ丙モ皆一ツニ歸シテ仕舞フ、甲カ日本人テアルト云フ方面カラ見ルトキハ即チ甲ハ日本人ヲ表現シテ居ルト云フノテアル、然ルニ此甲ハ必ス身體及ヒ財産カラ成ツテ居ル、唯精神ハカリカ存在シテ居ルノテナクシテ必ス身體カアリ、又物カアリ、心ト身體タケテハ矢張り成立カ出來ス、必ス物ニ依ツテ成立シテ居ル、自分ノ身體タケテ成ツテ居ルト思フノハ間違ヒテアツテ、外ノ物カラ成ツテ居ル、又其外ノ物ヲ利用シテ我カ活動シテ居ル、斯クシテ甲ノ持ツテ居ル財物ヲ取ツテ見マシテモ、其財物ニハ二ツノ方面カアル、一ツノ方面ハ甲ノミニ特殊ナル所ノ關係ヲ持ツテ居ル方面ト、乙ニモ丙ニモ

通スル所ノ關係ヲ持ツテ居ル方面トアル、サウ云フ二ツノ方面カ財物ノ上ニモ存在シテ居ル、其關係ヲ人爲ニ明カニシタノハ貨幣テアル、貨幣ノ性質トシテハ最能ク其二ツノ方面カ發達シテ居ル、私ハ自分ノ懷中ニ金ヲ持ツテ居ル、其金ハ私タケニ屬シテ居ルモノテアツテ、他人ノ金テハナイ、同時ニ其金ハ何人ニモ使ヘルノテアル、何人ノ物ニモナレル、ソレ故私ハ物ヲ買フコトカ出來ル、私一人ニ通用スルモノテアツタナラハソレハ金テハナイ、貨幣ナルモノハ何人テモ喜ンテ取ルモノテアルカラ、ソレ故貨幣テアル、斯ウ云フ二ツノ方面ヲ持ツテ居ル、此人爲ニ二ツノ方面アルコトヲ明カニシテ居ル所ノ金ト云フモノニ換算シテ各個人ノ持ツテ居ル財産ニ普通ノ方面アルコトヲ形式的ニ保障セシムル所ノ一ツカ租稅テアル、私カ金ヲ持ツテ居ル、是ハ算ノ持ツテ居ル金タケレトモ、算ハ同時ニ日本人テアル、サウスレハ私ノ持ツテ居ルノハ日本人ノ持ツテ居ル金テアル、アナタ方ノ持ツテ居ル金モ皆日本人ノ持ツテ居ル金テアル、アナタ方ト云フ特殊ナモノカ持ツテ居ル金テアルケレトモ、アナタ方ヲ日本人トシテ見レハ日本人ノ持ツテ居ル金テアツテ、露西亞人ノ持ツテ居ル金テモナケレハ、猿ヤ犬ノ持ツテ居ル金テモナイ、日本人

憲法 憲法ト表現關係及ヒ獨立關係

ノ持ツテ居ル金ナルカ故ニ自分ノ懷中ニ持ツテ居ラウカ國庫ニ置イテアツテモ同シコトアル其公平無私ノ方面アルカ故ニ其方面ヲ明カニスル爲メニ苟モ日本ノ持ツテ居ル金テアルナラハ君ノ懷中ニ置カストモ宜イカラ茲ニ出シ給ヘ所持金全部ヲ出スニハ及ハヌナセナレハ諸君ハ皆諸君ト云フ特殊ノ人タル方面カアル故ニ全部出スニハ及ハヌケレトモ日本人ト云フ方面カアルカラ其方面タケ金ヲ出シ給ヘト云ツテ茲ニ集メタルモノ國庫ノ手元ニアルモノカ日本ノ金テアル即チ普遍我ノ金テアル國家ノ金テアリマスサウ云フ性質ヲ持ツテ居ルモノカ今日ノ租稅テアルソレ故此ノ如キ金ハ我我カ出サナケレハナラヌト云フ方面モ持ツテ居マセウケレトモ出サナケレハナラヌト云フハカリテハナイ出シタ時ニ御前ノ金ハ受取ラヌト言ハルルコトモナイノテアル御前ノ金ハ受取ラヌト云ハルルコトハ我我カ人ニ物ヲヤツタ時ニ君ノ物ハ貰ハヌト云ツテ辱シメラレタト云フタケニ止マラヌノテアル其人間カ日本人トシテ日本國ニ歸一シ日本國ヲ表現スルトシタコトヲ否定シタモノト見ナケレハナラヌ即チ臣民ノ神聖ナル所ノ一ツノ方面ヲ認メラレヌモノトサレタト云フ結果ニナルカラ此ノ如キコトハ

サレナイト云フ權利ヲ我我カ持ツテ居ル品物テアルナラハ物ヲ貰フ方カ得テアルト云フ考ハ是ハ物質主義カラ推論シテ出テ來ル所ノ間違ツタ考テアル我我ハ物質ノ方面ニ於テ自分ヲ擴張シテ外ノ人間ヲ自分ノ内ニ置クコトカ出來ル即チ外ノ人間ヲ統括スルコトカ出來ルノテアルソレ故ニ人ヲ御馳走スルノハ自分カ損ヲスルカノ如クテアツテ却テ外ノ人間ヲ自分カ支配スル所以テアル物ヲ貰フノハ外ノ人間カラ干涉セラレタリ何カスル所以テアル要スルニ我我ハ日本國民トシテ租稅ヲ出スト云フノハ即チ財産ノ點ニ於テモ國家ト歸一シ財産ノ點ニ付テ國家ノ各種ノ活働ヲ間接直接ニ表現スルコトノ出來ル所以テアル間接ニ表現スルト云フノハ我我カ表現組織ヲ構成シテ平タク言ヘハ議員ト爲リ又ハ大藏大臣ト爲リ又ハ各種ノ國家ノ表現組織ト爲ツテ國家ノ財政ヲ運用スルコトノ出來ル所以モ亦茲ニ存シテ居ルノテアル

此ノ如ク物ノ方面ニ於テモ我我ハ國家ニ歸一スルト云フ方面ヲ持ツテ居ツテ唯對立スル方面ハカリヲ持ツテ居ルモノテナイト云フコトヲ御話シタノテアルカ此ノ如クニ國家ト歸一スル關係カ憲法ニ依ツテ或ハ明カニ或ハ暗ニ或ハ直接ニ

或ハ間接ニ認メラレテ居ル此種類ノ歸一關係ヲ表現關係ト云フ

第四章 憲法ト性質及ヒ數量

第一 性ト數

然ルニ次ニ憲法ニハ表現關係ト云フモノト相俟ツテ獨立全部關係ノ明カニセラレタルニ止マラス其性質ト云フモノヲ數テ保障スルト云フヤウニシタモノテアル一體性質ト云フコトト數ト云フコトハ別テアルケレトモ其間ニ密接ノ關係ヲ持ツテ居ル最モ良イ所ノ性質最モ眞ノ性質最モ美ナル性質ハ必ス數ニ依ツテ保障セラレヘキモノテアル例ヘハ前説ノ如ク各人ハ各人テアルケレトモ段段本來ノ根本的ノ性質ヲ求ムルト日本人テアル日本人ト云フ點カラ見ルト甲一人ニ專屬シテ居ラス乙一人ニモ專屬シテ居ラス日本人ナルモノハ現在テモ五千萬人モアルノテ昔カラ今マテノ日本人ヲ數ヘ將來ノ日本人ヲ數ヘタナラハ無數テアル之ヲ日本人ト云フノハマタ淺イ性質テアツテモツト深イ性質ヲ尋ヌルトキニハ人類人類ニ至レハ其數ハ尙ホ多イ或ハ又外ノ方面カラ申セハ理窟ヲ言フト間違ツタ理窟ト正シイ理窟トヲ較ヘテ見ルト間違ツタ理窟ノ贊成者ハ數カ少イ正シ

イ理窟ノ贊成者ハ勿論數カ多イ正シクナル程數カ多イ唯無教育ノ者ナトハ高尚ノ説ヲ聽イタ所カ分リマセスカラ間違ツタ説ニ贊成スルカモ知レヌケレトモ人間カ段段教育ヲ受ケ段段理窟ヲ考ヘタトキニハ高尚ナ理窟正シイ理窟ノ方ニ贊成スルヤウニナル結局ハ正シイ理窟ノ方カ勝ツ譯テアル或ハ其一ツノ時代一ツノ瞬間ヲ取ツテ申ストキハ間違ツタ理窟ハ始終變ツテ無クナツテ仕舞フ正シイ理窟ニ亘ツテ見ルトキニハ間違ツタ理窟ハ始終變ツテ無クナツテ仕舞フ正シイ理窟ナルモノハ始終動かヌテ存在シテ居ルソレタカラ一番古イ理窟ナルモノカ一番新シイ理窟テアル古クカラ今日マテ殘ツテ居ルモノハ正シイカラ殘ツテ居ル昨日雜誌ノ上ニ載ツテモウ明日ニナレハ古クナルト云フヤウナ説ハ新鮮テモ何テモナイ間違ツタ説テアル又美ト云フ方面カラ言フト本當ニ奇麗ナモノハ誰カ見テモ奇麗テアル現在奇麗ト云フコトカ分ラヌモノテモ段段美ト云フ觀念カ發達スレハ成程是ハ美テアルト云フコトニナルサウ云フヤウナ風ニ性質ニ於テ根本的ナルモノハ必ス其數カ多クナルシ又多クナケレハナラヌモノテアル故ニ何人モ之ニ贊成スルコトカ出來ヌトシタノハ間違ツタコトテアツテ間違ハヌト云フ

コトノ爲メニハ多クノ賛成者ノアルト云フコトカ必要テアル

第二例 說

然ルニ今國家ヲ表現スルト云フコトヲ申シタカ其表現スルト云フモノハ自分ヲ推擴メテ總テノ者ト歸一スルト云フコトニ依ツテ始メテ表現ト云フコトニナル自分ヲ推擴メテ外ノ者ニ歸一スルト云フハテアルカラ自分一人ト云フコトハイカヌ必ス澤山ノ數ト云フコトカナケレハナラヌ先ツ君主ニ付テ見ヤウナラハ表現人タル君主ナルモノハ何故君主カト云フト其服裝ニ在ルノテハナク或ハ人相ニ依ルノテナクシテ自分ヲ推擴メテ國家ト歸一シ普遍我トシテ公平無私ノ活働ヲスルト云フノテ君主テアル然ルニ國家ニ於テ此ノ如キ表現者カ一人キリ無カツタトスレハ即チ君主カ表現ト云フ公平無私ノ活働ヲ獨占シタモノテアル獨占スルトキニハ即チ公平無私テナクナツテ自分ノ勝手ヲ行フ自分ヲ國家全部ニ擴張スルノテナクシテ自分ノ勝手ニ收縮スルト云フ虞カアル現ニ專制國ノ時分ニ於テハ本來理窟カラ云ヘハサウ君主一人ノ爲メニ外ノ總テノ人間カ存在シテ居ルノテナイ君主ハ國家ノ公平無私ナル表現人トシテノ性質ヲ持ツテ存在シテ

居ルニ拘ラス國家即チ君主ナリト云フ思想カ行ハレテ現ニ「ルイ十四世ノ如キハ「パールマン」ニ於テ國家即チ朕ナリト云フコトヲ宣言シタノテアル又國法學者モ之ヲ尤ナリト爲シ今日ニ於テサヘモ尙ホ其說ヲ以テ是ナリトシテ居ル者カアル位テアルソレ故ニ表現者ナルモノハ唯一人テハイカヌ必ス數ニ依ツテ公平無私ナルコトカ保障サレナケレハナラヌ是ニ於テ今日ハ君權國ニ於テモ君主一人ノミナラス同時ニ君主カ侵スコトノ出來ヌ權限ヲ有スル國會テアルトカ裁判所テアルトカ國務大臣テアルトカ云フヤウナ機關カ出來タソレハ憲法ト云フモノニ依ツテ明カニセラレタノテアル單ニ明カニセラレタハカリテナクテ憲法ニ依ツテ保障セラレタノテアル

勿論昔ニ於テモ天然自然ト云フモノハ良ク出來タモノテアツテ唯一人カ君主トナツテ表現人ヲ獨占スルト云フコトハ長イ時ノ間ニハ出來ナイコトニナツテ居ルナセナラハ君主トナツテ居ラルル所ノ個人タル御方即チ陛下モ佛教テ謂フ生老病死苦ヲ免ルル御方テナイカライツカ代カ御替リニナル代カ御替リニナツタトキニハ既ニ元ト全ク同シ御方テナイト云フコトテアルカラ昔テモ數ニ依ツテ

モ保障セラレテ居ツタノテアルケレトモ同時ニツキテ見ルトキハ尙ホ數ニ依ツテ保障スルコトカ缺ケテ居ル從ツテ西洋史等ヲ見レハ君主タル御方カ公平無私ノ國權ヲ私シテ御自分カ國家ヲ專占スルヤウナ觀ヲ呈シタノテアル是ニ於テ憲法ニハサウ云フコトノナイヤウニシタノテアル而シテ君主以外ノ國家機關ヲ確定シ本來國家ノ活動國家成立存在ノ所以ニ基イテ根本的ニ存在スヘキ所ノ機關ヲ對立セシムルヤウニナツタ表現對立關係カ是ニ於テ發達シタ國會テアルトカ裁判所テアルトカ國務大臣トカ云フモノテアル國會裁判所ノ事ニ付テハ既ニ御存シテアルケレトモ國務大臣ノ如キモ矢張り同様ニ對立スル性質ヲ持ツテ居ルモノテアツテ唯君權國ニ於テ君主ヲ輔佐スルトカ補助スルト云フタケニ止ツテ居ラヌノテアル國會トハ全然同一テハナイカ尙ホ分意機關ト申スモノテアル即チ特殊ノ效力ヲ持ツテ居ルモノテアツテ國務大臣ノ副署カナケレハ天皇ノ發セラルル法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ノ如キモノカ效力カナイソレカ今日ノ立憲國ノ原則テアル

第三 三權分立論

而シテ此點ニ付テハ三權分立論テアルトカ云フヤウナコトテ諸君ハ夙ニ御承知ノコトテアラウト思フ而シテ今日憲法ヲ説ク者カ此立法上ノ機關タル國會司法上ノ機關タル裁判所行政上ノ機關タル國務大臣此三ツノ對立ノミニ重キヲ置イテ是ノミカラ憲法全部ヲ説明シヤウト思フノハ甚タ見方ノ狹イモノト云ハネハナラヌ勿論ソレモ憲法ノ中ノ一ツノ大切ナル事柄テアルケレトモソレハ唯一小部分テアツテソレノミカ憲法ノ存在スル所以テハナイ憲法ノ存在スル所以ハ前ニ御話シタ通り根本的ニ大切ナコトカアツテ三權分立ニ依ツテ説明スルノハ性質ヲ數ニ依ツテ保障スルト云フコトノ一部分テアル而シテ尙ホ御注意シテ置クノハ三權分立ト云フノヲ立法司法行政トシテ論スルノハオカシイト思フ法ト云フ點カラ言ヘハソレハ立法司法行政テモ宜イカモ知レヌケレトモ法ハカリテハナイ國家ノ存在ニハ物ト云フモノモ入用テアル其方面カラ見ルト國會ナルモノハ立法機關ノミテハナイ國會ハ財政ヲ監督スル機關テアル又物ノ方ニハ會計検査院ナルモノカアツテ物ノ方ニ裁判所ト云フモノハナイ尙ホ國務大臣其他ノ機關ハ行政機關ト同シ實質ノモノテアルカ唯法ノ方面ハカリニ留意シテ立法司法

行政ト云ツテ騒クノハ餘程見解カ狭イト思フ。

第四 自治組織

尙ホ數ニ依ツテ性質ヲ保障スルト云フ點カラ云フト、今日ハ官制上又ハ其他ノ法律ニ依ツテ認メラレテ居ル所ノ機關トカ、組織トカ云フモノタケカ公平無私ニ國家ヲ表現スルモノテハナイ、今日ハサウ云フヤウナ機關及ヒ表現組織ノ外ニ、ソレニ對シテ自治組織ナルモノカアル、自治組織ナルモノハ、即チ各個人悉ク之ヲ構成シテ居ル、現在ニ於テハ、五千萬ノ我、我ハ皆各々自治組織ヲ構成シテ居ル、即チ數ニ依ツテ普遍我公平無私ナル表現人ト云フモノヲ保障シテ居ル所ノ極端テアルト思フ、之カ即チ憲法ノ存在スル所以テアル、ソレ故ニ我我カ自治組織ヲ構成シテ居ルカ故ニ始メテ獨立獨行スルコトヲ保障セラレテ居ル、若シモ國家ト對立シテ居ルモノテアルナラハ國家ニ對シテ自分ノ意思ヲ貫徹スル、國家ノ制限ヲ受ケナイト云フヤウナコトハ、少クモ國家ノ利益トナルヘキヤウナコトテハナイノテアル、然ルニ我我ハ自治組織テアル、我我カ發展スルノハ、即チ國家ノ發展スル所以テアル、我我カ獨立獨行スル所以ハ、即チ國家ノ雄大ナル所以テアルト云フノテアルカ

ラ國家ハ喜ンテ我我ノ獨立獨行ヲ保障シテ居ルノテアル、恰モ私ノ身體ノ一部分カ痛ム、痛ムカ故ニ其處ヲ大切ニシテヤル、大切ニシテヤルト云フノハ、其一部分ヲ毀損スルトキニハ、即チ寛自身カ毀損スルノテアルカラ、ソレテ其一部分ヲ大切ニスルノテアル、若シモ寛ト私ノ手ト云フモノカマルテ別ナモノテアツタナラハ、私ノ手カ痛ンタ所カ寛カ頓著スル必要ハナイ、家ニ寢テ居ル必要モナケレハ、藥ヲ附ケル必要モナイノテアル所カ、手ト寛トハ別ナモノテアルケントモ、其手カ痛ムト云フノハ、矢張り寛カ痛ムノテアツテ、手カ毀損スルノハ、寛カ同時ニ毀損スルノテアルカラ、ソレテ手ヲ大切ニシ、手ノ欲スル所ニ從テ我我カ手ヲ大事ニシテヤル、ソレカ即チ寛ノ健全ナル所以テアル、國家モソレト同シコトテアツテ、我我カ獨立獨行スルト云フノハ、國家以外ノ我我カ獨立獨行スルト云フノテハ、法律上説クコトハ出來ナイノテアル、我我カ獨立獨行スル所以ハ、即チ國家カ發達スル所以テアル、ナセナレハ、我我ハ國家ノ自治組織テアル、自分テ自分ノコトヲ考ヘテ、自分ノ發展ヲシテ行クコトヲ權限トシテ居ル所ノ表現人テアルカラ、テアル公平無私ノ心ヲ以テ、自治組織ノ構成者タル、自分ノ特色ノ發揮ト云フコトヲ權限トシテ居ル所ノ

表現人テアル、ソレ故總テ個人ノ獨立ト云フモノカ尊重セラレ得ルコトニナルノテアル

第五章 憲法ト實質及ヒ形式

次ニ又今日ノ憲法ニ於テハ實質ト云フモノヲ形式的ニ保障シテ居ルノテアル、實質ト形式トハ固ヨリ違フモノテアルケレトモ、是モ亦離ルヘカラサル關係ノアルモノテアツテ、若シモ實質ニ於テ動キカナイトキニハ形式ナトハ問ハスシテ宜シイノテアルケレトモ、其實質ノ益々完全ナルコトヲ保障スルカ爲メニ尙ホ形式ヲ以テ之ヲ保證シナケレハナラヌ、我邦ニ於テモ昔出來タ聖德太子ノ憲法第十七條ノ如キハ、今日ノ憲法ト實質ニ於テハ私ハ同シコトテアルト思フ即チ精神ニ於テハ同シ事テアルケレトモ、ソレヲ運用スル所ノ方法カ意思ノ形式ニ依ツテ具ツテ居ラヌ、我我ノ生活上果シテサウ云フコトカ宜イノテアルナラハ其通りニトウシテモシナケレハナラヌト云フ風ニ仕向ケル所ノ意思ノ關係カ定メテナケレハナラヌ、然ルニ夫レヲ定メテナイソレカ昔ノ聖德太子ノ憲法テアル、今日ノ憲法ナルモノハ意思ニ關係シ依ツテ理窟ニ副フヤウニ活動ノ出來ルヤウニ出來テ居ル從

テ今日ハ唯形式的ニ憲法ノ條文ニノミ拘泥スルト云フ弊ハ生シテ來タノモ亦其處ニ在ル精神ヲ忘レテ形式ニ拘泥スルヤウニナツタノハ今日ノ缺點テアルカ併シ其形式カ伴ツテ居ルコトカ今日ノ憲法ノ特色テアル、平タイ言葉ヲ以テ申セバ例ヘハ人間カ皆利巧テアルナラハ法律制度ト云フヤウナ形式ハイラヌ、然ルニ少シソレカ劣ツタ人間ニナツテ仕舞フトキニハ實質ニ於テ何カ宜イカ、又果シテトレカ宜イト云フコトカ分ツテモ薄志弱行ニシテ其通りニスルコトカ出來ナイカラサウ云フ人間ニナルトトウシテモ形式的ノ意思ノ關係カ定メテナケレハ不都合カ多イ、日本大學ニシテモ理事ナトト立派ナ人カ揃ツテ居ルトキハ規則ナトハ大抵テ宜イカ知ラヌカ、ツマラヌ理事カ來タトキニハ無茶苦茶ノ規則テハ學校ハ潰レテ仕舞フコトニナラネハナラヌ、今日憲法ハ老婆心ニ依ツテ數ト云フコトヲ考ヘテ人間モ利巧ナ者ハカリハ居ラヌ、否少數ナ公平無私ナ人間カ居ツテモソレテハイカヌ、又主觀的ニ公平無私ノ人間タケテモイカス、客觀的ニ公平無私ナル活動ノ出來ル材能ヲ有スル人間テナクテハナラヌ、兎ニ角ニ多數ノ者カ相俟ツテ益益性質ヲ發揮サセヤウトスルノテアルカラト云フノテ、實質ヲ發揮スルニ形式ヲ

以テスル其精神カ實質ノ性質カ形式ニ移ラントスルノテアツテ、實質ヲ發揮スルニ形式ヲ以テ補ヒ、相俟ツテ益々完美セムコトヲ欲シタモノト云ハネハナラヌ、從テ昔ハ天皇ハ勿論存在シテ居ルケレトモ、臣民ニ關スル規程ノ如キモ具ツテ居ラヌ、各種ノ機關ノ如キ規程モ殆ト無イノテアル、又國家ノ會計ニ關スル規定ハアツテモ、今日ノ如キ規定トハマルテ違ツテ居ル、即チ形式ノ上テ較ヘテハ昔ノ憲法ト今日ノ憲法トハ雲泥ノ差カアルノテアル

第六章 日本憲法ノ最モ重キ特色

此ノ如キモノハ極メテ大體テハアルカ、今日憲法ノ大體ノ發達ノ方向テアツテ、今日憲法カ各國トモ皆サウテアル、唯今日憲法カアツテモ尙ホ各國何レモ憲法ノ背後ニハ最小限度ノ國法ナルモノカアルコトヲ忘レテ、ハナラヌノテアツテ、我邦ニ於テモ憲法カ出來テ始メテ、日本國カ出來タノテナクシテ、憲法以前ニ既ニ日本國ハ存在シテ居ル、而シテ其存在ト同時ニ最小限度ノ國法カアリ、其國法ハ憲法ノ發達シタ今日ニ於テモ常ニ其背後ニ存在シテ居ル、從テ入用ノトキニハイツモ憲法ノ窓カラ顔ヲ出スノテ、此ノ如キコトヲ證據立ツルモノハ我憲法テモ八條、十四條

三十一條、三十二條、六十三條、七十條、七十一條、七十三條、七十六條等テアルケレトモ、

今特ニ之ヲ述ヘス

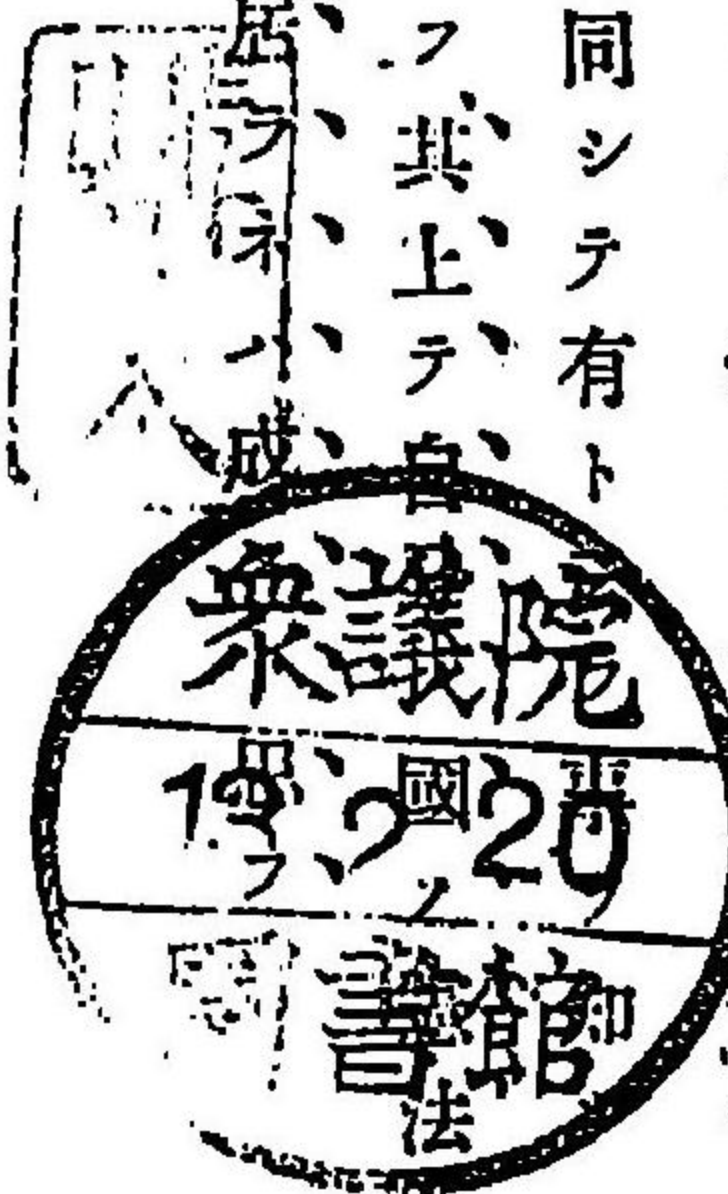
最後ニ日本ノ憲法ノ最モ特色トスル者ハ、天皇ノ規定テアル、我邦ノ最小限度ノ國法ナル者ノ發達ハ確定シテ居ルト云フ程度ニ於テ實ニ著シイ者テ有テ、是ニ依ツテハ、天皇カ我邦ノ總攬機關テアル、我憲法ナル者ハ特ニ之ニ基イテ之ヲ明カニシテ居ル、夫ハ總テノ部分ニ付テ見エテ居ル事テアルカ、先ツ憲法ノ制定ニ成タノモ天皇ノミノ機關意思ニ依ツテ成立シタ者テ有テ、又憲法七十三條ニアル如クニ將來トモ憲法ヲ改正スルニ當ツテモ提案權ハ天皇ノミカ持ツテ居ル、其他一條乃至四條ニ於テハ天皇ノ地位ノ事ヲ直接ニ確ニ規定シテアルシ、又五條、七條ニハ國家ノ立法權ニ付テ天皇ノ地位ヲ明カニシ、十條及ヒ五十七條ニハ直接間接ニ司法權ノ事ニ付テ天皇ノ地位ヲ明カニシ、又九條ニ於テハ行政上ノ命令權ニ付テ天皇ノ地位ヲ明カニシ、十一條、十二條ニ於テハ武力ノ點ニ付キ無條件ニ法律ヲ以テセスシテ軍ノ編制モ出來、常備兵額モ定メラレル十三條ニ於テハ國家ノ對外作用ニ付キ、又六十七條、七十一條ニ於テハ豫算ノ事ニ付テ特ニ天皇ノ地位ヲ明ニシテ居ル、

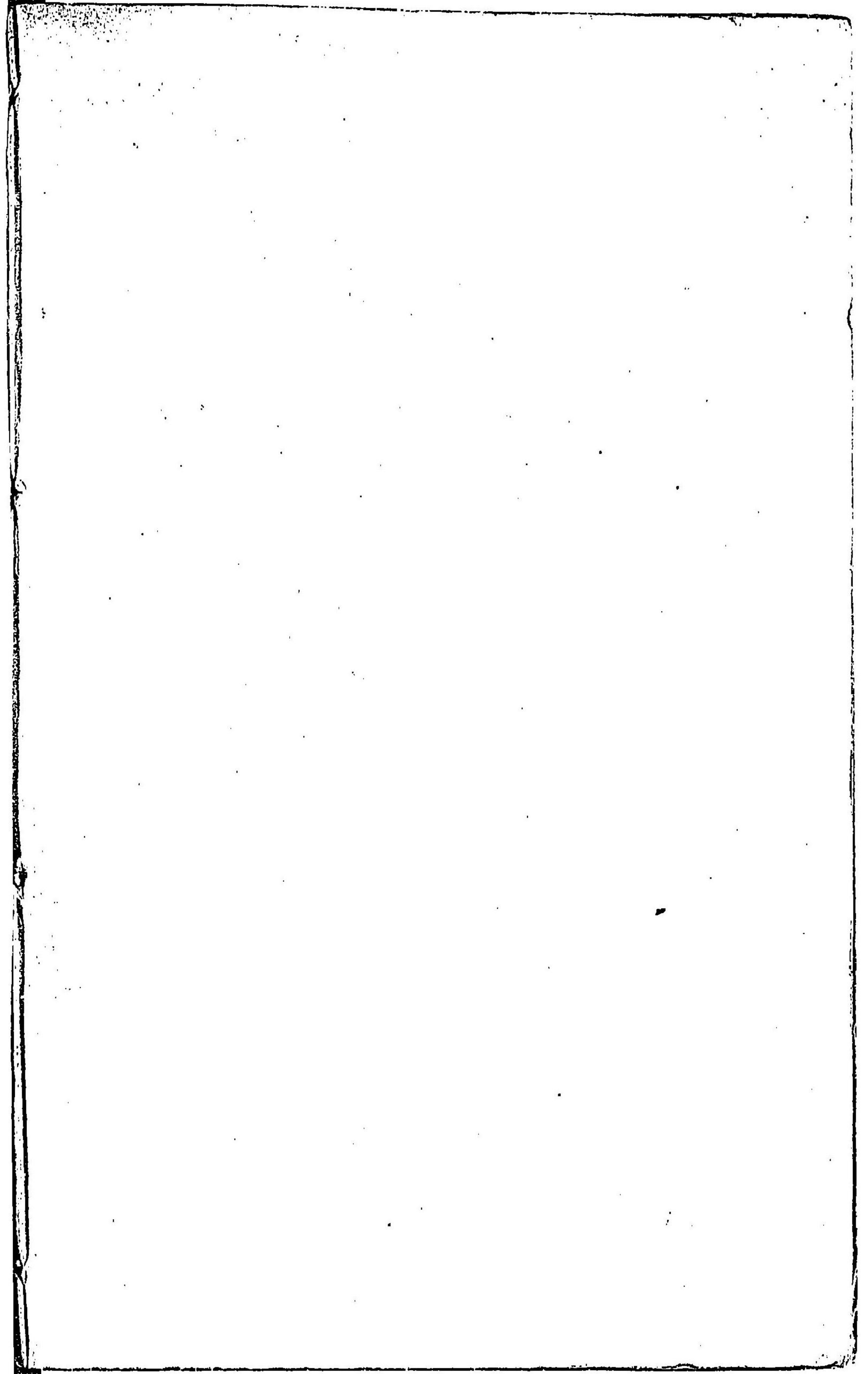
其他先程述べた最小限度ノ國法カ憲法ノ規定ヲ通シテ憲法ノ窓カラ顔ヲ出シテ居ルト申シタ規定ノ如キハ悉ク天皇ノ地位ヲ明カニシテ居ル者テアル

第七章 結論

要スルニ日本ノ憲法ニハ日本ノ憲法ノ特色ハ有力尙ホ各國ノ憲法ト同シ様ナ性質ヲ持ツテ居ルモノテアツテ日本ノ憲法タカラ外國ノ憲法ト違フ外國ノ憲法ノ法理ヲ以テ日本ノ憲法ノ法理ヲ説ケナイト云フ事ハ大ナル間違ヒテアル成程特色ハアル甲ノ憲法ト乙ノ憲法ト丙ノ憲法ト各違ツテ居ルケレトモ段段本來ノ性質ヲ尋ヌル時ニハ憲法タル事ハ同シ事テアル恰モ各國人太郎次郎三郎各々違ツテ居ルケレトモ男ノ子テアル人間テアルト云フ事ハ同シタト云フト同一テアル夫故憲法ノ研究ニハ外ノ國ノ憲法ト精神ニ於テハ始終同シテ有トテ始終留意シテ之ヲ看逃サヌ様ニシナケレハ成ヌト思フ其上テハ自
ハ特色ハトウ云フモノテアルト云フコトヲ能ク辨ヘテ居ラズニ成

憲法終





特70

130

憲法

克彦著

031468-000-0

特70-130

憲法

克彦 / 述

[刊年不明]

BBE-0067

